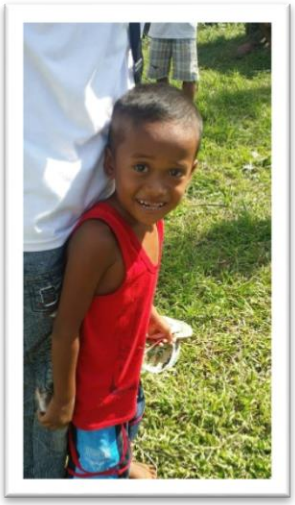
PHILIPPINE SUMMER CAMP

2015 8/20～9/10　　Place: Tabango, Leyte



Reported by

FIWC-Kyusyu

目次

１．　はじめに

２．　FIWC とは

３．　重要人物紹介

４．　事前、下見スケジュール

５．　Survey（事前調査）について

６．　2016 春ワーク内容

７．　その他調査地

８．　ワーク地決定経緯

９．　Evaluation

１０．　生活状況

１１．　係報告

１２．　他己紹介

１３．　感想

１．はじめに

今回の下見キャンプで私たちは今まで事業を行ってきたマタグオブ市から離れ、タバンゴ市で調査を行うことを決めた。この決断は大きな挑戦である。本当に私たちでできるのか。不安だらけだった。

今回のテーマは

First step～第２のふるさとへ～

新しい地で最初の大きな一歩を私たちの足で踏み出したい。そしてキャンプを終えた後に第２のふるさとと呼べるような場所にしたい。決して簡単なことではないけれど、この７人ならできるはずだ。そんな決意とともに私たちはフィリピンに飛び立った。

初めて事業を行う市ですべてがうまくいったわけではなかった。トラブルもたくさんあった。けれど私たちはしっかりと自分たちで判断し「確実性」「FI にしかできないワーク」をもとに来年春の事業を決定することができた。

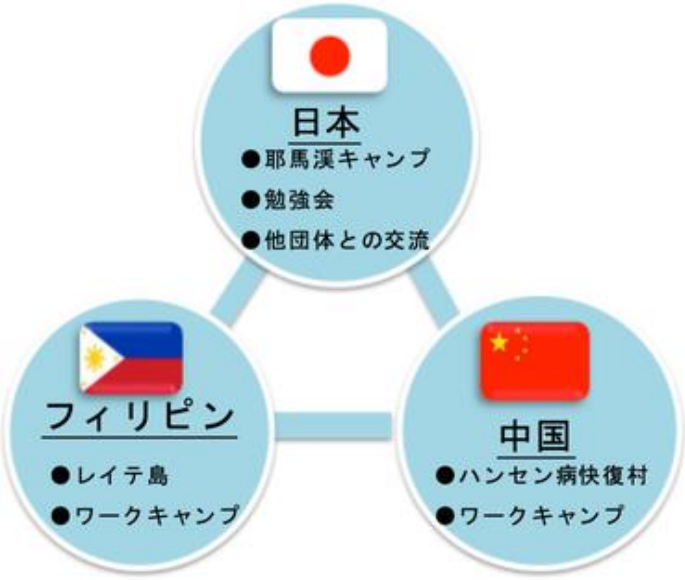
今回のキャンプを無事に終えられたのはメンバーだけではなく、現地の人、そして日本でキャンプを支えアドバイスをくださった人のおかげだ。一人では小さな力でもたくさんの人を巻き込めば大きな力になる、そう感じた下見キャンプだった。関わってくれたすべての人にお礼を言いたい。

まだ始まったばかり。少し小さすぎるかもしれない。本当は迷惑かもしれない。それでも、大好きなフィリピンの地へ行こう。そして私たちの足跡をつけよう。きっとたくさんの笑顔が待っているはずだ。

2016 年フィリピンキャンプリーダー　林田梨里子

２．FIWC とは

Friends
International
Work
Camp



FIWC 九州は九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

＜国際活動＞
●中国キャンプ
　ハンセン病快復村に行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。
●フィリピンキャンプ
　フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。
＜国内活動＞
●耶馬溪キャンプ
　年 3 回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。
●FP(FIWC Party)
　月 1 回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会＆交流会
●その他
　学祭、まんぱ（Monthly Party)、総会、国内合宿　など

　他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！！

３．重要人物紹介

【ロクロクさん（現地エンジニア）】
1999 年から FIWC 関東のキャンプに参加してくださっている現地のエンジニア。FIWC 九州発足後は九州のプロジェクトのみに関わらずキャンプを様々な面から支えてくださっています。今回のキャンプでもほぼ毎日付き添ってくれた彼は、新しい地に踏み入れた私たちにとって本当に欠かせない存在でした。FIWC のメンバーを心から愛してくれる、私たちのお父さん的存在です。

【メイヤー（市長）】
今回初めてワークを行うタバンゴ市の市長さん。ムニシパル（市役所）を訪れるたびに彼女は飛び切りの笑顔で私たちを迎えてくれます。私たちが安全に survey を行うことができたのも、彼女の協力があったからです！これからこのタバンゴ市で活動を行う私たちは、今後もたくさんお世話になると思います。よろしくお願いします！

【カピタン（村長）】
今回のキャンプ地であるブタソンＩ村の村長さん。survey に同行してくださったり、お家に泊めていただいたり私たちに本当によくしてくださいました。彼女の作るご飯はとってもおいしいです！最終日には旦那さんのお誕生日会に呼んでいただき、レチョンバボイ（ブタの丸焼き）をごちそうになりました。若々しくちょっぴりお茶目な村長さんです。

【タタイ・がリオ】
前回ワークを行ったブノイ村の村長さん。いつも優しい笑顔と温かい目で私たちを見守ってくれています。お家を訪れると、本当に嬉しそうに迎えてくれます。普段はのんびりとお散歩をしているような村長ですが、前回のFIWCとのキャンプについてブタソンＩ村の人々に熱く話して下さりとてもかっこよかったです。

NorWeLeDePAI(North Western Leyte Development Parent’s Association Inc.)

FIWC 九州と 2004 年から連携体制をとっている現地のNGO団体です。
この団体は、レイテ島北西部の村々で子供たちと両親が中心となってコミュニティーの発展を目指す活動を行っており、 World Vision から資金援助を受けている。毎回パスポート等の管理をお願いしています。

４．事前・下見スケジュール

MTG スケジュール

6/8(月)　　第１回 MTG@あすみん
6/15(月)　　第２回 MTG@あすみん
6/23(火)　　第３回 MTG@あすみん
6/29(月)　　第４回 MTG@あすみん
7/7(火)　　第５回 MTG@あすみん
7/13(月)　　第６回 MTG@あすみん
8/7(金),8(土)　　国内合宿@今宿野外活動センター
8/8(土)　　最終 MTG@今宿野外活動センター
8/20(木)~9/10(木)　下見キャンプ
9/18(金)　　事後 MTG@あすみん
10/24(土)　キャンプ報告会

キャンプ日程

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				8/20 出国（セブー泊）	8/21 ブノイ村到着	8/22 BONOY
8/23★ Evaluation	8/24★ 表敬訪問 （タバンゴ） survey① リオグリオグ	8/25★ ノルウェル訪問 FIWC関東訪問	8/26★ survey② ベリソン& マニゴン	8/27★ survey③ ビクトリー **ワーク地決定** **ブタソンⅠ村**	8/28★ survey④ パラナス& パガバガン	8/29
8/30	8/31★ ブタソンへ移動 カガワットと MTG BUTASON Ⅰ	9/1★ survey⑤ ハビアン	9/2★ reservey① パラナス& パガバガン	9/3★ reservey② ベリソン& マニゴン	9/4★ GAM （ベリソン＆ マニゴン）	9/5 Japanese Festival
9/6★ reservey③ パラナス＆ GAM（パラナス ＆パガバガン）	9/7★ 表敬訪問 （タバンゴ＆ マタグオブ）	9/8	9/9 ブタソンⅠ村 出発	9/10 帰国		

★…ロクロクさんが協力してくれた日

表敬訪問…市役所を訪問し、市長や役員に挨拶をしたり、警察署にパスポートのコピーを渡したりする。

GAM(General Assembly Meeting)…通称ジェネアセ。村人を集めて FIWC・決定したワークについて説明し、理解を得るための集会。

カガワット…村役員を指す

フライト日程

8/20(木)　10:30 福岡空港発→　仁川国際空港→　23:55 マクタン空港着

セブ島で一泊（@Fuente Pension ホテル）

↓

9/10(木)　01:35 マクタン空港発→　仁川国際空港→　15:25 福岡空港着

５．survey（事前調査）について

今回タバンゴ市で初めて survey を行った。

survey の流れ

① タバンゴ市長に会いに行き、survey をする村の候補地を出してもらう。
② survey は全部で 4 日間行った。
　1 日目　リオグリオグ（集落）を survey
　2 日目　ブタソン I村ベリソン、マニゴン（集落）を survey
　3 日目　ブタソン I村ビクトリー（集落）を survey 後ブタソン I村に滞在
　4 日目　ブタソン I村パガバガン、パラナス（集落）を survey
③ ブタソン I 村でワークを行うことを決定
④ ブタソン I村ハビアン（集落）survey
⑤ ワーク地決定
⑥ resurvey（正確な予算を出すためにワークに必要なパイプなどの計測を行った）
⑦ パガバガン・パラナスの村人に対する GAM@パガバガン
　マニゴン・ベリソンの村人に対する GAM@マニゴン

※GAM…スケジュール参照

survey の様子

GAM@マニゴン

感じたこと

○今回、survey できる日数が少なく、マタグオブ市からの移動はお金も時間もかかるという理由でブタソン I村に滞在させてもらいながら survey を行った期間があった。しかしそのときまだワーク地を決定していなかったため、村人に大きく期待させてしまっていると感じた。まだワーク地が決まってない間は滞在を避けた方がよいと思った。タバンゴ市は一つの村が大きく、山村は道が険しいことが多いため移動に時間がかかる。たくさんの集落を survey したいのであれば、ひとつの村に決定した後、その村に滞在しながら survey するという方法もあると思った。

公平性

○パラナスの survey の際に英語を喋れる人のみが私たちのインタビューに答えていた。後日 resurvey に行ったところ、インタビューに答えていなかった人が別の場所に小さな井戸があり、修繕を行ってほしいと訴えてきた。その人は survey のときには英語を喋れないことが恥ずかしくインタビューに答えられなかったそうだ。集落を調査するときにはカガワット（村役員）のような集落長はいないため、出会った村人にインタビューを行った。しかしパラナスのようにインタビューした村人によって意見が異なったり、集落の中に上下関係が存在したりする可能性がある。survey では公平に村人の意見を聞けるよう工夫しなければならないと感じた。

政治的問題への関与に対する注意

○すべての survey を終え、メンバーで話し合った結果マニゴン、ベリソン、パラナス、そしてワーク地として挙がっていたパガバガンの 2 つの地区のうち 1 つのワークをすることに決定した。ワーク期間に余裕を持ちたい、またパガバガンの 1 つの地区の水道システムにはすでに改善するための予算が組まれていたため、私たちがする必要はないと考えた結果だった。しかしその結果を現地エンジニアに伝えると、FIWC がワークを行わない地区の人が嫉妬してしまう可能性があると伝えられた。その後もう一度話し合い、私たちのワークが始まる前に、村にパガバガンの 1 つの地区で事業を終わらせてもらえば村人の嫉妬はなくなるのではないかと考え、村長に提案した。すると村人は村が行う事業よりも日本人が行う事業を信頼しており、嫉妬が起こると予想された。また、FIWC がワークをしない地区の人が反村長派に回ってしまう恐れがあり、来年行われる選挙に影響が出てしまうかもしれないため、パガバガンの 2 つの地区でワークを行ってほしいということだった。FIWC は政治的に中立な立場であることを重視した結果、最終的にパガバガンでは 2 つの地区でワークを行うことに決定した。

私たちは、政治的問題に絶対に関与しないよう十分に注意を払わなければならない。また、様々な変更に柔軟に対応することが大切である。

GAM

○私たちの滞在していたプロパー地区では GAM を行うことができなかった。ブタソン I村での滞在中、私たちが何者か分からず不信感を持っていた村人もいたかもしれないことを考えると、FI の紹介をする場を作らなければならなかったと思う。

６．2016 年ワーク内容

○概要○

場所：フィリピン共和国レイテ島タバンゴ市ブタソン I 村ベリソン・マニゴン・パラナス・パガバガン（すべて集落）

内容：Improvement of Water Systems(水道設備の改善)　計６つ

期間：約１６日

【費用】

市	0p
村	0P
FIWC	135,000P（約 35 万円）
合計	135,000P（約 35 万円）

※市も費用を出すと言ってくれたが、今回はタバンゴ市で初めてのワークであり、費用面でのトラブルを避けるため、ワーク費全額を FIWC で負担することに決めた。上記予算を超える場合は、村が負担することになっている。また、パガバガンの一部の資材（タンクに使う資材とパイプ）はもともと村の予算に組み込まれていたものを使用する。

○重要語句○

・プロパー…ブタソン I 村の中心の集落、村の小学校があり村内で一番栄えている集落

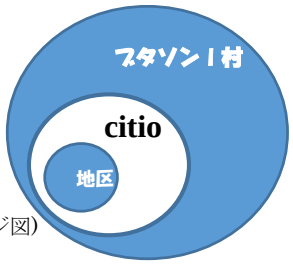
・レイテレイテ…タバンゴ市の隣の市。大きなマーケットがあり、ブタソン I 村からはボートで行く

・ヒバコガン村…ブタソン I 村の隣村

・サリサリ…お菓子や生活用品、野菜などが売られている小さな売店

・citio…村内にある集落の呼び名

・地区…citio 内にある地域の呼び名



(イメージ図)

○ブタソン I村について○

人口	489 世帯	戸数	413	Citio 数	13
電気	3 citio のみ通っている。				
トイレ	323 世帯が持っていない。プロパーには３つある。				
水道システム	・プロパー以外の citio にはない。 ・１citio に１つは井戸があるが、晴れの日が続くと水が枯れてしまう井戸もある。				
台風の復興状況	・収入源であるココナッツの 90%が被害を受けた。 ・259 戸（全体の 63%）が全壊、154 戸が半壊した。				

他団体の援助	・カラヒ→道の舗装 ・Japan Platform→米の支給とヘルスセンターの建設 ・CFSI→サウンドシステム ・その他にも援助している団体はあるが、すべてプロパーのみへの援助である。
備考	・毎週土曜日に全 citio の村人が野菜や肉などを持ち寄り、マーケットが開かれる。 ・デイケアセンター・小学校がプロパーにある。 ・High School はないため高校生は隣村に通う（徒歩約 1 時間）か、タバンゴ中心地まで通っている。（寮滞在の人もいる）

※カラヒ（KALAHI）…貧困村などにインフラ整備などの形をとり援助を行う社会福祉のプロジェクトのこと。主な資金源は国で、規模がかなり大きい。

※Japan Platform …2000 年に設立された NGO 団体。NGO、経済界、政府が対等なパートナーシップの下、三者一体となり、それぞれの特性・資源を生かし協力・連携して、難民発生時・自然災害時の緊急援助をより効率的かつ迅速におこなうためのシステム（JPF HP より）

※CFSI（Community Services Family International）
…生活の再構築を目的とし、平和と社会発展のために尽力する人道的活動組織。

○ワーク詳細○

①ベリソン

戸数	12	電気	なし	トイレ	なし
台風の復興状況	・ココナッツ全滅、家屋が全壊。 ・家屋の再建は終了したが、簡易的なものであり、再び台風で壊れる可能性が高い。				
生活状況	・子供たちは 30 分以上かけてプロパーの学校に通っている。 ・毎日 2,3 回、食料などを購入するためプロパーのサリサリに行く。お金が入ったときは、ボートでレイテレイテのマーケットに行く。				
主な問題点	・飲み水を得るため、集落から約 300mのところまで朝と昼の計２回、水を汲みに行く。 ・水源と水路が開いている為、水が汚れやすい。				
ワーク詳細	・ワーク期間は約７日間（マニゴンのワークと同時進行）。 ・水源からの竹の水路をパイプに変える。 ・水源を整備して、セメントで閉じ水質の向上を図る。 ・集落までパイプをひき、メインタンクを作る。				

予算	村：０Ｐ　市：０Ｐ　FIWC：18,050Ｐ　合計：18,050Ｐ
備考	・飲み水に利用している水源の水自体は美味しい。 ・洗濯や水浴び等の生活用水は集落近くの井戸を利用している。 ただし、井戸自体は浅く、開いているため水は綺麗ではない。

水源

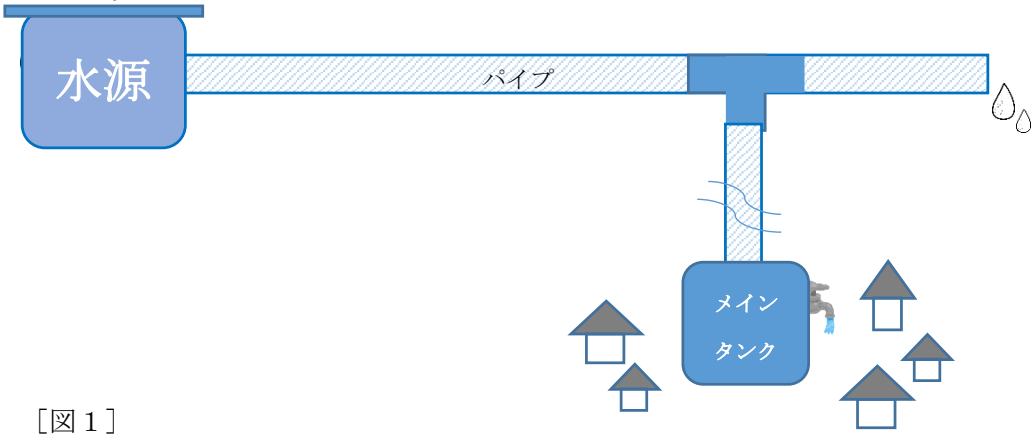
水源から続く竹の水路

村人が水を汲む場所

＊ワーク内容＊

BEFORE

AFTER



［図１］

ベリソンでのワークの主な作業内容は図１のようになる。水が垂れ流しになっているところから少し登ったところに水源がある。水源も竹の水路も開いているため、まず水源を閉じ Closed タンクにする。竹の水路もパイプに変え、水質の向上化を図る。また、集落にもパイプをひきメインタンクを作ることで村人の水汲みの負担を減らす。

②マニゴン

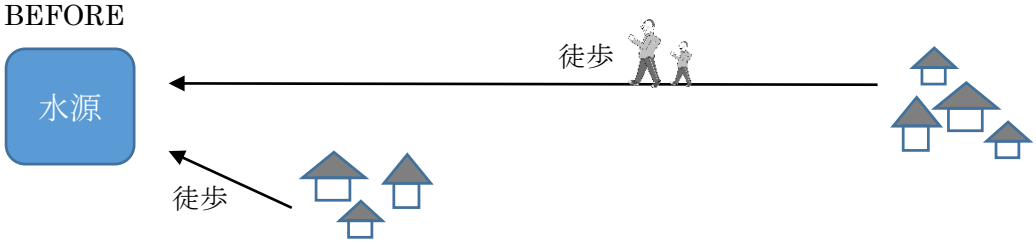
戸数	34	電気	あり	トイレ	なし
台風の復興状況	・32 戸が全壊、2 戸が半壊。 ・家屋の修復は進んでいるが一時的なものにすぎない。 ・まだ家のない人は、ほかの人の家で生活している。 ・マニゴンの人々が所有しているベリソンにある田んぼも被害を受けたが、現在は復活している。				
生活状況	・一番の問題としては食糧があげられた。 ・学校には１家庭（７人）を除き、通っている。 ・農業（コーン）で生計を立てている。 ・買い物はプロパー、レイテレイテに行く。				
主な問題点	・井戸の水は綺麗だが低い位置にあり開いている。 ・洗濯や水浴び等の生活用水が井戸に戻り水が汚くなるため、飲み水には使えない。				
ワーク詳細	・ワーク期間は約７日間（ベリソンのワークと同時進行）。 ・井戸を綺麗にして閉じ、Closed タンクにする。 ・井戸付近にポンプを２つ設置する。 ・人口が多く、遠い集落にパイプをひき、オープンタンクと蛇口を作る。				
予算	村：０Ｐ　市：０Ｐ　FIWC：22,150Ｐ　合計：22,150Ｐ				
備考	・飲み水は、プロパーもしくはベリソンの垂れ流しの水を利用。				

現在使っている井戸

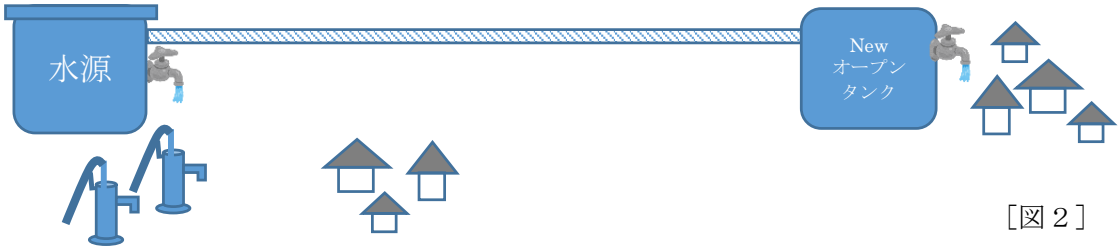
井戸付近の壊れたポンプ

＊ワーク内容＊

BEFORE



AFTER



［図２］

マニゴンでのワークの主な内容は図２のようになる。まず水源を閉じ、Closed タンクにし蛇口を設置する。井戸付近にはポンプを２つ設置する。また、citio もいくつかの地区に分かれているため、井戸までの距離が遠くかつ人口の多い地区に細いパイプをひきオープンタンクと蛇口を設置する。なお、パイプを水源の蛇口より高い位置に設置することで、もしタンク内の水が少なくなった場合にも蛇口からは常に水が出る状態を確保する。また、そのような場合、遠い集落の人々にはこれまで通り水源まで歩いて来てもらう。

オープンタンクと蛇口（写真はブノイのもの）

③パラナス（１）、④パラナス（２）

戸数	17	電気	あり	トイレ	２戸あり
台風の復興状況	・２戸が全壊、残りが半壊。 ・資材の援助があったため、50%は修復が終了している。 ・ココナッツはほぼ全滅した。				
生活状況	・漁業で生計を立てている ・子供たちは全員学校に通っている。 ボートを使ってヒバコガン村の小学校・高校に行く。 ・買い物はサリサリが多い。まとまったお金があるときはボートでレイテレイテのマーケットに行く。				
主な問題点	・生活用水を得るため、川の向こう岸までボートで水を汲みに行かなければならない。 ・歩いて行ける場所にも井戸があり、ボートのない家庭など少数の人は洗濯・水浴びなどに利用しているが、浅く水量も少なく開いているため、水は綺麗ではない。				
ワーク詳細	・ワーク期間は約２日（２ワークを同時進行）。				

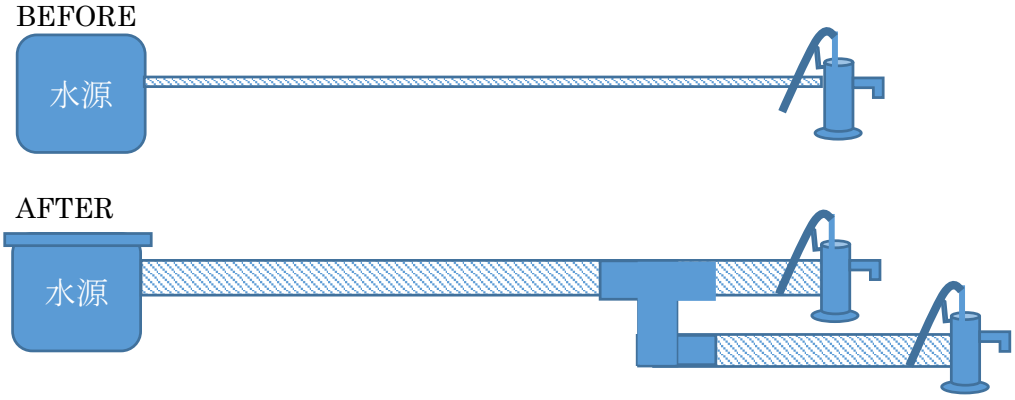
	（１）対岸のワーク ・距離：１４０ｍ ・細いパイプを太いパイプに変える。 ・新しい高性能なポンプを２つ設置し、軽くするためにバルブを取り付ける。 ・水源の井戸を閉じ Closed タンクにし、水質を向上させる。 （２）少人数が使う井戸 ・Closed タンクにし、その上にポンプを設置する。
予算	村：０Ｐ　市：０Ｐ　FIWC：24,500Ｐ　合計：24,500Ｐ
備考	・対岸にはハンドポンプがあるが、パイプが細く、一押しで出る水の量も少ない。また、ポンプ自体も古く、硬い。

↑パラナス（１）の水源

水源からポンプまでのパイプの様子

←パラナス（１）のポンプ

＊ワーク内容＊



［図３］

パラナス（1）のワークの主な内容は、図３のようになる。水源を整備して閉じ、水源からポンプまでのパイプを細いものから太いものに変更する。また、この水源はパラナス以外の集落の人や他の村の人も使うため利用者が多く、ポンプが壊れやすい。そこで、ポンプはより高性能なものを新たに２つ設置し、ポンプを軽くするためにバルブも取り付ける。

←パラナス（２）の井戸の様子

パラナス（２）の水源はパラナスの集落までパイプをひけるほどの水量もないため、ワークの内容は、水源を閉じ､その上にポンプを設置するにとどまる。

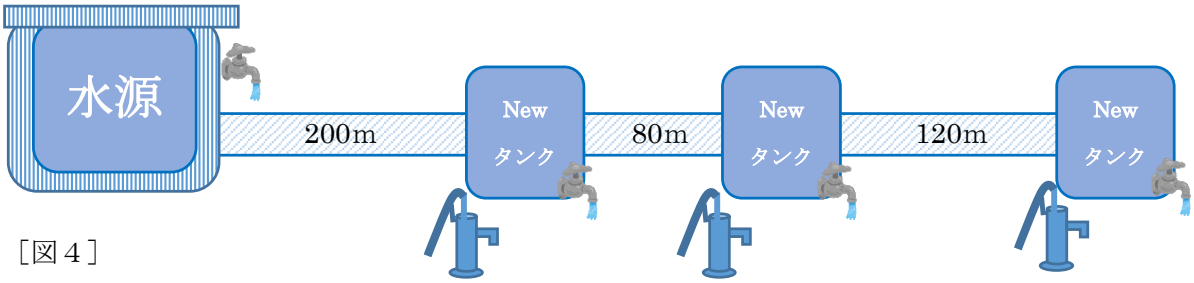
⑤パガバガン（１）

戸数	56	電気	90%あり	トイレ	10%あり
台風の復興状況	・80%が全壊、20%が半壊し、約 50%が復旧。 ・ココナッツとバナナが全滅し、バナナはほぼ復活した。 ・デイケアセンターが全壊し、いまだ再建されていない。				
生活状況	・漁業より農場従事者のほうが多いが、どちらもやっている人が多い。 ・ヒバコガンの小学校・高校にボートで通う子供が多い。 ・ほとんどの学校にはボートでしか通学できないが､唯一プロパーの学校には歩いて通うことも出来る。				
主な問題点	・集落から 300m先（徒歩 5~10 分）まで歩いて水を汲んでいる。 ・ヨランダ（2013 年台風）以前は集落までパイプを引いていたが破損。水源のタンクもダメージを受け、水漏れしている。 ・洗濯・水浴びは水源付近で行う。				
ワーク詳細	・ワーク期間は約７日間（パガバガン（２）のワークと同時進行)。 ・距離：４００ｍ ・水源のタンクを頑丈にし、蛇口を取り付ける。 ・集落にパイプをつなげ、タンクとポンプを３つずつ設置する。				
予算	村：０Ｐ　市：０Ｐ　FIWC：21,250Ｐ　合計：21,250Ｐ				
備考	・水源は２つあるが、どちらも水源以外の水道システムがない。 ・飲み水は水源の水を飲むか、ミネラルウオーターを購入する。				

パガバガンの多くの人が利用する水源

水源の中の様子

＊ワーク内容＊



［図４］

パガバガン（１）のワークの主な内容は、水源のタンクをより頑丈にし、蛇口を取り付けることである。また、家屋の密集している３か所にタンクとポンプを設置する（図４参照）。

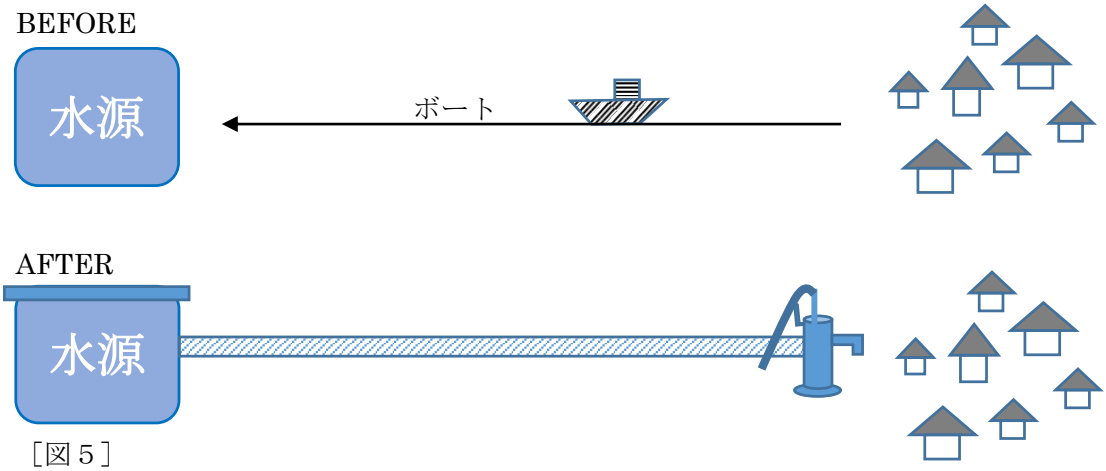
⑥パガバガン（２）

戸数	7	電気	あり	トイレ	１戸あり
台風の復興状況	・５戸が全壊、２戸が半壊し、50%復旧。 ・ココナッツとバナナも被害を受けた。				
主な問題点	・１日２回程度、ボートで水を汲みに行く。 ・満潮の時は塩が入るため、パガバガン（１）の水源まで行く。				
生活状況	・買い物はレイテレイテのマーケットに行く。 ・ヨランダによりココナッツから収入を得られなくなったため、漁業のみで生計を立てている。				
ワーク詳細	・ワーク期間は約７日間（パガバガン（１）のワークと同時進行）。 ・水源から集落までパイプをひき、ポンプを設置する。 ・水源を閉じて Closed タンクにする。 （パラナス（１）と同じワーク内容）				
予算	村：０Ｐ　市：０Ｐ　FIWC：28,450Ｐ　合計：28,450Ｐ				
備考	・引き潮の場合、歩いて水を汲みに行くこともある。				

↑井戸の様子

約 350mの距離をこのボートで水を汲みに行く→

＊ワーク内容＊



［図５］

パガバガン（２）のワーク内容は、図５のようになる。水源から集落まで川沿いにパイプをひき、集落にはポンプを設置する。また、水質の向上を図るため、水源を閉じて Closed タンクにする。また、ポンプを軽くするためにバルブも取り付ける。

【予算の内訳】FIWC 九州

資材・ツール代	：125,000Ｐ
感謝料・予備費	：　10,000Ｐ
合計	：135,000Ｐ

※ＦＩＷＣの予算内に、ロクロクさんへの感謝料・予備費も含む。

○パガバガンについて○

パガバガンには３つの地区があるが、今回ＦＩＷＣは最終的に２つの地区でのみワークを行うことに決定した（詳しくは“5.survey~政治的問題への関与に対する注意~”参照)。私たちは GAM で村人から意見が出るまで２つの地区しか把握しておらず、残る１つの地区については survey をすることができなかった。残る１つの地区の人々は山を下り水源まで歩いて水を汲みに来ており、自分たちの地区に近い山のふもとにも新しくタンクやポンプを設置してほしいと頼まれた。そして、キャンパーで話し合った結果、

①survey をしていないため現状が分からないこと

②タバンゴ市で最初のキャンプだからこそ、「survey→ワーク決定→ＧＡＭ」という順序が大切であること

③New タンク・ポンプの方が水源よりも近くにあるため少なからずこの地区の人にも利益があること

④ワーク期間が上記６つのワークだけでもキャンプ期間内ぎりぎりであること

以上４つの理由により、今キャンプでのワーク実施を断念した。

全ワークが終了し、パイプが余った場合にはすべて村に提供し自由に使ってもらおうということになった。しかし、１つの地区にだけ直接的なワークが施されないことはフィリピン人の嫉妬心を生んでしまう恐れがあるため、最終的に、パガバガンの地区のうち FI がワークできない地区の水道システムは村が指揮を執りワークを行うことになった。予算も村が負担し、FIWC のワークとは全く別のワークである。万が一、そのワークが終わっていない場合でも、FIWC はパガバガン以外のワークに進むことが出来る。

○ワークで予想される問題点の回避策○

Water System は壊れやすく、メンテナンスが必要	毎年、村の予算の一部として、メンテナンス費を準備してもらう。使用しなかった費用を、翌年に繰り越すことはしない。
パイプが通る・ポンプが設置される土地の所有者から、ワークの許可が下りない場合がある	村長によると、すでに許可は取得済みであり、後日　村長が改めて所有者の所へ行ってくれるとのこと。　現地エンジニア(ロクロクさん)とパイプが通る場所やポンプの設置場所を確認した結果、特に問題は見られなかった。
FI の滞在するヘルスセンター・BRGY ホールのあるプロパーからパガバガン・パラナスへ行くにはボートしか手段がないため、移動時間が潮の満ち引きに大きく左右され、予定通りにワークが進まない可能性がある	パガパガン・パラナスでのワークの際、それぞれ１～２日ずつホームステイを行う。その場合、パガバガンには公共トイレを１つ設置してもらう。

７．その他の調査地

今回は、タバンゴ市の中心部に近いリオグリオグという citio（集落）と、ブタソン I村で 6 つの citio を survey(事前調査)した。合計 7 つの citio は、リオグリオグ、ベリソン、マニゴン、ビクトリー、パラナス、パガバガン、ハビアンである（ベリソン、マニゴン、パラナス、パガバガンについては 2016 年ワーク内容参照）。これらの survey についての詳細を以下に示す。

〈リオグリオグ〉

人口	137 戸
台風の復興状況	・収入源である漁業とココナッツへ大きな被害を受けた ・29 戸が部分的に被害、それ以外の家は全壊したが、 50~60%がすでに回復している。
主な問題点	・水道設備が 6 戸にしか整備されていない。 ・水道設備のない家庭は、水を公共の井戸とポンプから得ているが、どちらも水圧が弱く、十分な量の水を供給できていない。 また、水質も良くないため、飲み水は市の中心部から購入するか、汲みに行かなければならない。 ・CR（トイレ）がない家が 83 軒ある。
ワーク詳細	・Water system の整備 citio に 3 つある地区のうち、現在 Water system が使えない 2 つの地区の井戸とポンプそれぞれの水源をさらに深く掘り、タンクを設置することで水圧の向上を図る。 ・CR の設置 3 つの地区それぞれに公共の CR を設置する。 Water system の近くに設置することで維持しやすくする。
予算	村：0P　市：0P　FIWC：125,000P
備考	・BRGY ロードの整備にカラヒがおりている。 ・赤十字から 1 軒あたり 10,000P の補助金が 19 戸のみにおりている。 ・もし日本人の滞在が決定すれば、市が即席のテントと CR を設置してくれる。

Survey の様子

井戸の内部の様子

［FIWC の判断］

ワークの規模も適当で利益の範囲も大きかったが、水と CR が無く、日本人の滞在が難しかった。また、市の中心部のすぐ近くであり、他団体からの援助も入っていたため、今後、市や他団体による援助が予想されたことから FIWC のワーク地には適さないと判断した。

〈ビクトリー〉

人口	46 戸
台風の復興状況	・すべての家が全壊、現在は 50%が回復している。 ・バナナやココナッツ等、収入源である農作物へ被害。 ・バナナへの被害は回復しているが、ココナッツへの被害はまだ回復していない。
主な問題点	・一番の問題は収入がないこと。 ・晴れの日が続くと、井戸の水が枯れることがある。 その場合は、同じ citio にある別の水源へ水を汲みに行く。 ・CR がない。

ビクトリーの井戸の 1 つ

［FIWC の判断］

citio 全体があまりにも広く、またそれぞれの家が離れていたため、今回 survey では全ての地区を survey することは出来なかった。また、ワークについても FIWC の力で問題を解決することは難しく、利益の範囲も小さいため、FIWC によるワークは難しいと判断した。

〈ハビアン〉

人口	12 戸
台風の復興状況	・すべての家が全壊したが、現在は 50%が回復している。 ・農作物への被害は、ココナッツへの被害以外は回復している。
主な問題点	・収入が無く、生活が厳しい。 ・台風や雨で洪水が起きた際、川の水が井戸に入り込み使えなくなる。 ・CR がない。

ハビアンの井戸　洪水時に川の水が流れ込み使えなくなる

［FIWC の判断］

この地区は水源が乏しく、他の水源を探すことも難しい。また、現在使用している井戸を改善しても一時的なものになってしまうため、ワーク地として適さないと判断した。

以上が、今回ワーク地に選ばれなかったその他の調査地である。これに加えて、我々が滞在することになったブタソン I村のプロパー（村の中心部）で、台風によって壊れた橋の survey を行ったので、その詳細について以下に示す。

主な問題点	・台風によってプロパーと他の citio とを繋いでいる橋が流された。現在は竹による即席の橋が架かっているが、いつ壊れてもおかしくない状況である。 ・この橋は 13citio 中 12citio の住民が利用し、特に子供は学校に行くために必ず毎日通らなければならない。
ワーク詳細	・壊れた橋の再建
予算	総額 300000P

台風で壊れた橋

現在かかっている竹の橋

［FIWC の判断］

多くの村人がほぼ毎日利用するため、利益の幅が大きい。しかし、ワークの規模が大きく、予算も FIWC の出せる額を大きく超えている。また、工期も一か月を超えるため、今回はワークの実施を見送った。しかし、市と村と FIWC がそれぞれ予算を出し合い、しっかり時間をかけて計画、実行すれば不可能なワークではない。今回は FIWC がタバンゴ市に移って初めてのワークであったため確実性を重視して見送られたが、将来のワークの候補としてここに記載しておく。

８．ワーク地決定の経緯

今回の下見キャンプでは、日本での話し合いの結果、FIWC が今まで survey、ワークを行ってきたマタグオブ市から、タバンゴ市に新たに活動の拠点を移すことが決定した。その理由は以下の通りである。

・過去 10 年以上もの間 FIWC がワークをしてきたことや、他団体の援助が入ったことにより、以前に比べて村のニーズや、私たちが解決できる問題が減ってきている。
・タバンゴ市はマタグオブ市に比べて大きな市であり、マタグオブ市よりも多くのニーズが見込まれる。
・ロクロクさんの体調が近年決して良いとは言えず、ロクロクさんが私たちを手伝ってくださっている間に新しい市へ移り、基盤を築いておきたい。

これらの理由から、今回の survey ではタバンゴ市の村または集落で survey を行った。

現地では、タバンゴ市の 7 つの集落を survey した。これらの集落のうち、6 つはブタソン I村に属する集落であったため、ワーク地決定に際しては、初めにブタソン I村で複数の集落でワークをするか、リオグリオグという 1 つの集落でワークをするのか話し合った。その後、ブタソン I村にワーク地を決定してから、どの集落でどのようなワークを行うのか resurvey を行うという形でワーク詳細を決定した。
ワーク地決定の理由は以下の通りである。

リオグリオグ

予算的にも期間的にも適当で、利益の範囲も大きかったが、
・水と CR がなく、日本人のステイできる場所もないため私たちが滞在してワークをすることが難しい。
・市の中心部に近く、FIWC が関わらなくても将来的な改善が見込まれる。
・他の団体からの援助も入っている。

等の理由から最終ワーク地には選ばれなかった。

ブタソン I 村

FIWC 以外も沢山の団体が援助をしていたが、そのほとんどが村の中心部のみであり、他の集落には手が入っていなかった。また、私たちが少し手を加えるだけで改善するワークが複数あり、小規模で確実に利益が見込まれるワークであるという点から、今回の下見キャンプのテーマである「First step」という、新しい市で確実にワークを成功させ、信頼関係を築くという目標に沿ったワークであったため、ブタソン I村にワーク地を決定した。

９． evaluation

〇evaluation とは？

前回のワーク地に再訪し、前回行ったワークの状況と日本人との生活について、インタビューによって事後評価を行う。今回は前回のワーク地であるブノイ村で行った。

〇2015 年春ワーク

〈概要〉

・場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市ブノイ村

・内容：Improvement of water system

・期間：2/13～3/14（ワーク日 15 日間）

・参加者：FIWC 九州（17 人）、村人(一日 20 人程度)、
　　カガワット(村役員)、現地エンジニア

〈ワーク詳細〉

前回のワークでは、主に新しいタンクの建設とパイプの入れ替え作業を行った。

・問題点

　水源は豊富だが水道設備の効率が悪く蛇口からの水圧が弱い。晴れの日が続くと水が出ないこともある。100 世帯以上の家庭が 3 つの公共の蛇口を使用している。毎日何十回も公共の蛇口と家を往復して水を運ばなければいけない。

・FIWC 九州が行ったワーク

① 1.5inch の水道管を 2.0inch に、1.0inch の水道管を 1.5inch にそれぞれ交換。

② 新しいタンクを建設。

③ 元々３個の蛇口を７個に増やし、さらに BRGY ホールの蛇口から水を出す。

④ 新しいタンクにはオープンタンクを設置、蛇口を２個設ける。

○ワーク後の状況

・FIWC が設置したすべての蛇口から十分の水圧の水が出ており、問題はなかった。
・ラバやリーゴなども水の出がよくなったためスムーズに行えていた。
・FIWC が設置したパイプから水道を引いている家庭はまだ少なかった。
・プロパーからサンマルセリーノへの道がカラヒにより舗装工事が行われていた。

○evaluation 結果

【１】FIWC のワークについて

１、家庭に蛇口とウォーターメーターが設置されていますか？

yes:4 人　　no:39 人

２、FIWC のワークにより利益が出ましたか？

yes:41 人　　no:1 人

３、FIWC 九州が帰国した後、ウォーターシステムに問題がありましたか？

yes:8 人　　no:35 人

yes と答えた人はどんな問題があり、どう解決しましたか？

・暑さで水が熱くなる
・タンクの水漏れ→カガワットが直した

４、food for work により配られた米は生活の助けになりましたか？

yes:32 人　　no:5 人

※food for work とは…
ブノイキャンプでは台風によって収入源を失ってしまった村人達にとって生活は依然として苦しく、ボランティアの余裕ない人が多い。FIWC は資金援助をする団体ではないため、出来るだけお金の援助は避けたいという思いもあり、私達は働きに来てくれた村人達に、現金ではなく米を支給する food for work を行うことにした。

【２】FIWC 九州の滞在について

１、FIWC の滞在を楽しんでくれましたか？
yes:44 人　　no:0 人

２、FIWC のメンバーにより困ったことがありましたか？
yes:1 人　　no:42 人

３、FIWC と行ったもので楽しかったものはなんですか？
・ワーク：15 人　・Japanese Festival:15 人
・Education Project:10 人
・ホームステイ：3 人
・フェアエルパーティー：11 人　・その他：12 人

４、FIWC のホームステイはどうでしたか？
・good:17 人　so so:0 人　bad:0 人

５、FIWC のふるまいは子供たちにとってどうでしたか？
・good:43 人　so so:0 人　bad:0 人

６、Education Project に参加しましましたか？
yes:29 人　　no:7 人
yes と答えた人はこの project を楽しみましたか？
yes:29 人　　no:0 人

※Education Project とは…
ブノイキャンプでは行った新たな教育活動。
子供に勉強の楽しさを知ってもらうためクイズや化学実験行った。

７、勉強はすきですか？（子供に対して）
yes:32 人　　no:0 人

～総括～

蛇口の状態、水圧、どちらもよい状態だった。FIWC が設置した蛇口を使ってラバやリーゴをしている村人を見るとワークの達成感を味わうことができた。何度か水漏れがあったがカガワット（村役人）により修理済みであったことからメンテナンスもしっかりされている印象だった。ウォーターメーターと蛇口に関してはほとんどの家庭がまだ設置されていなかった。ブノイには新たにカラヒがおりており、ブノイからサンマルセリーノへの道の舗装のワークを行っていたため道が通りやすくなっていた。FIWC 九州の滞在に関しては、楽しんでくれた人が多かったようだ。Education Project も多くの人がよい印象を感じてくれており、子供も楽しんでくれた。しかし、少なからず FIWC が滞在する際に迷惑をかけたこともあったはずである。この反省を次の本キャンプでも生かしていきたい。ブタソン I 村では滞在する場所とワーク地が違うため、また新たな問題が生じたり迷惑をかけることもあるだろう。フィリピン人のことを考えながら常に感謝の気持ちを忘れず生活していきたい。

１０．生活状況

衣

基本的に半袖半ズボンにビーチサンダルで過ごす。フィリピンは雨季と乾季があるが 1 年中暑く、最高気温が 30℃を超えるような日がほとんどである。熱中症にならないよう帽子をかぶったり、日焼け対策にアームカバー、レギンスなどがあるとよい。山道に入るときは長ズボンとクロックスなどの足全体を覆えるものでないと草まけやケガの原因になるので注意。朝夜は冷え込むこともあるので長袖長ズボンがあるとよい。ほとんどの衣類は現地で安く購入できる。

食

フィリピンは鶏肉、豚肉やジャガイモなどの野菜といった基本的な食材は日本と変わらず、醤油や塩で味付けするので比較的日本人の味覚に合うものが多い。主食はお米であり、日本人はフォークとスプーンを使って食べる。そして、今回ワーク地に決定したブタソン I 村は山と海に囲まれた地域で魚やエビの魚介類が多い。めでたいことがあるときには大きなエビとカニがでてくる。今回のメンバーに甲殻類アレルギーの人がロクロクさん含め二人いたので別に少量のおかずを用意してくれた。また、バナナ・ココナッツなど亜熱帯のフルーツもたくさん食べることができた。飲み物は水やコーラ、スプライトなどの炭酸飲料を飲んでいた。生水を飲むとおなかを壊す可能性があるため、必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。

住

Survey 期間中は前回のワーク地マタグオブ市ブノイ村の BRGY ホールという村の公民館のようなところに寝泊まりさせてもらっていた。タバンゴ市ブタソン I村では BRGY ホールの横にあるヘルスセンターというところに寝泊まりさせてもらった。どちらともゴザを敷いて床に寝る。

【風呂】

日本のように湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに溜めた水を手桶ですくって水浴びする「リーゴ」というスタイルが主である。ブノイ村では外にリーゴをするところがあったので、キャンパー何人かで一緒に外ですることもあった。その場合は服を着たまま水浴びをする。ブタソン I 村ではトイレにリーゴをするスペースがあるので 1 人ずつ行った。シャンプーなどはオルモックでの買い物の際に購入した。※ワーク後は身体が熱を持っているため、1～2 時間おいてから水浴びすること(熱を持った状態で水浴びをするのは良くないらしい)

【洗濯】

現地の言葉で「ラバ」という。洗濯機はないので洗濯はすべて手洗いで行った。タライに水をため、粉末洗剤で汚れを落とす。日本人は手洗いになれていないため時間がかかるのに加え、汚れが落ちない。現地のお母さんたちの動きを見て真似をして少しでも上達するように励んだ。干すときは家の周りのロープや柵に干していた。

【トイレ】

便座がなく、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流であるが、今回寝泊まりしたブタソン I村のヘルスセンターには今年つくったばかりの新しいトイレがある。そのトイレにはなんと便座があり、水洗であった。しかし、トイレットペーパーを流すと詰まる可能性があるため、紙はゴミ袋に捨てていた。フィリピンで水洗のトイレは珍しく、大半が用を足したあとはポリバケツに溜めている水を手桶ですくって流す様式である。この場合、うまく流しきれずに詰まることもあるので要注意。

【買い物】

ブタソン I 村からはボートに約 40 分乗って、タバンゴ市の隣のレイテレイテ市のマーケットへ行く。食料品、衣類、薬など生活に必要なものはほぼそこで調達することができる。ミネラルウォーターもここで買う。また、村の中には「サリサリ」と呼ばれる小さな個人商店があり、お菓子やお酒などのちょっとした買い物をすることができた。ブタソン I 村が山の中の村であり、村人もしょっちゅうマーケットに行くことが関係してサリサリが生活を支えているのかサリサリの規模が他の村に比べると少し大きかった。また、マタグオブ市から車で 1 時間ほどのオルモックという港町では、村ではできない買い物や、日本円からペソなどへの換金などもできた。

【交通】

今回の survey はマタグオブ市からタバンゴ市という長距離の移動であったので「モルティカブ」という軽トラックの屋根付き荷台に乗って移動した。マタグオブ市にいる間の村どうしの近距離の移動には「ハバル」と呼ばれる中型バイクや、「トライシクル」と呼ばれるバイクに屋根付きサイドカーをつけたような乗り物に 3～4 人乗って移動した。タバンゴ市では、村と村の行き来は基本的にボートで行った。現地の青年が舵をとってくれる。

その他、空港―セブ港間はバンまたはタクシー、セブ島―レイテ島間はフェリーで行き来した。バン、タクシーは高額な運賃を吹っかけてくるドライバーもいるようなので値段交渉はしっかりと行い、乗る前に料金を確かめる。また、降りるときには忘れ物がないかどうかきちんと確認し、もしもの場合に連絡を取るためにできるだけタクシーのナンバーを控えておく。

ハバルハバル

ボート

モルティカブ

１１．係報告

＜会計＞

（仕事内容）金銭の徴収・管理、換金、毎日の収支記録

（料金の目安）

・【ホテル】（Wi-Fi 付き、ダブルベッド）

▽日本でネット予約した。

▽3 人 1 部屋を 2 部屋予約し 7,628 円。現地でエクストラ分 250P を支払った。

・【船】セブ→オルモック　410P×7

オルモック→セブ（スーパーキャット）　620P×7

・【バン】セブ空港→ホテル（ホテルに事前予約）　1800P/台

セブ港→SM　300P/台

SM→セブ空港　900P/台

・【ハバル】ブタソン I村→ヒバコガン村のカピタン家　50P/人

・【トライシクル】川沿い→レイテマーケット　15P/台

・【モルティカブ】タバンゴ←→ブノイ村　1500P

ブノイ村←→メリダ市　1800P

ブノイ村→ブタソン I村　1500P

ブノイ村←→ブタソン I村　2000P

１日レンタル　1700P

ブタソン I村→セブ港　2000P

・【ボート】ガソリン代　50P/ビン 1 本

・【空港税】　750P/人

（換金）　10 万 5 千円→426＄(8/4)

400＄→17500P（8/20）レート 43.75

426＄→19596P（8/21）レート 46.00

1 万円→3800P（9/9）

（支出）

	内訳	金額
宿泊費	１人分のエクストラ	250P
食費	水	819P
	食費	6882P
ロード	ロード	1110P
	SIM カード	40P

交通費	船	9210P
	トライシクル	341P
	ハバル	400P
	モルティカブ	15000P
	バン	3000P
	モルティカブガソリン	1007P
	ボートガソリン	700P
生活費	洗剤	174P
感謝料	ロクロクさん感謝料	7000P
	オペレーター感謝料	300P
その他	Japanese festival 食材費	32P
合計		46265P

（収入）

繰越金	8270P
生活費	37096P
予備費	3800P
合計	49166P

（収支）49166P　－　46265P　＝　2901P

（個人の旅費）

航空券代	40690 円
保険料	5000 円
生活費	15000 円
個人費	10000 円
キャンプ参加費	1000 円
合計	71690 円

（反省）

・多くの交通費がかかってしまい、市を移るということで仕方がないことではあるが、もう少し調整ができたのではないかと思う。最後に個人の予備費から出さなければならなかった事も含め、その場その場での対応になっており、全体を見通しての会計ができていなかった。

・1000P 札が残ってしまい、大きなお金は小さな商店などでは使えないことが多いため、困る場面が終盤に出てしまった。

・メンバーの協力もあり、こまめに収支を合わせることができた。

＜保健＞

〔仕事内容〕保健バッグの携帯・管理、メンバーに体調管理の声かけ

（フィリピンの
虫よけクリーム）

〔報告・反省〕

・マスクが大量に入っていたから、日本に半分くらい置いて行った。
・以前まではフィリピンで買った体温計を使っていたが信頼性が低いため、今回からは日本のものに買い替えた。
・ブノイからタバンゴに survey に行く日が何日かあったが、最初の二日間保健バッグを携帯するのを忘れた。

・ただ暑いからという理由などで survey の時や夜寝る時に冷えピタを使いすぎてしまった。ロクロクさんが体調を崩した時に渡す冷えピタや、暑い時に体を冷やすために使う冷えピタは各自で持っていくべきだった。
・数名腹痛になったメンバーもいたが、体調を崩す人はほとんどいなかった。
・帰国後、体調を崩すメンバーが多かったため、キャンプ後の環境の変化にも気をつけたい。

保健バッグ（大）の中身（出発前）

レスキューシート	４つ	ヘパリーゼ	９つ	ビオスリーH	多量
ガーゼ	１袋	消毒液	２つ	つめきり	２つ
ザ・ガード（袋）	１７袋	虫よけスプレー	２つ	ピンセット	１つ
ザ・ガード	１ビン	ムヒ	１つ	EVEA 錠	１箱
アルクイック IP	１箱	体温計	１つ	冷えピタ	１８個
正露丸	１ビン	ビューラック	多量	アクエリアス（粉）	７袋
フィリピンの薬	複数個	赤玉はら薬	多量	包帯	１つ
絆創膏（大・中・小）	それぞれ多量	医療用テープ	３つ		

保健バッグ（小）の中身（出発前）

レスキューシート	１つ	ムヒ	２つ
バンテリン	５つ	絆創膏（大・中）	１０枚
消毒液	１つ	虫よけスプレー	１つ
日焼け止めクリーム	１つ	ザ・ガード（袋）	２袋

〈イベント〉

【仕事内容】　新キャンプ地でのイベントの企画、イベントの進行、備品の準備

【イベント内容】ダンス・しっぽ取り・日本語教室・歌・ちらし寿司をふるまう

【報告】

ダンス　×　前日に練習したため慌てて
覚えることとなってしまった。
○　子供たちに前もって踊りを教えていたため、
子供も一緒に踊ってくれた。
コスプレのおかげでインパクトを与えることができた。

しっぽ取り×　詳しいルールを決めていなかった。
○　現地で手伝ってくれた高校生のおかげで進行がうまくいった。
ゲームはうまくいき、子供や大人も楽しくできた。

日本語教室×　村人に教えた日本語の単語の数が少なく、他の日本語を多く聞かれた。
○　参加してくれた村人に紙と鉛筆を配ったことで多くの日本語をメモして、
覚えてくれた。

歌　チェリーを歌い紹介した。
×　準備が十分ではなかった。
○　キャンパーが歌詞カードを書いてみんなに
配ったことで一緒に歌うことができた。

ちらし寿司　酢飯には好き嫌いがあったがほとんどの
村人がラミ！とおいしく食べてくれた。
準備もイベント係以外のキャンパーが
してくれたのでスムーズに提供できた。

【反省】

下見でのイベントがどんなものかあまりイメージがつかず準備が十分でなかった面が多くあった。ポスターを前日の朝に貼ったがもっと早めに貼るべきだった。それでも多くの村人に参加してもらえて楽しくできたのは非常に良かった。また、日本語教室で教えた日本語を使ってくれたり、チェリーを歌ってくれたりと日本のことを理解しようとしてくれていると感じた。イベントは新しい市に移動して日本人を理解してもらうため、仲良くなるための大事なものになる。そのことも意識しながら何よりもフィリピン人も日本人も楽しいJapanese Festivalを本キャンプでも作りたい。

１１．他己紹介

《りりこ》

我らがリーダーＲＩＲＩＫＯ。下見キャンプはりりこなしにはあり得ませんでした。私たちは知っています。彼女がリーダーとしてのプレッシャーと戦いながら必死に努力していたことを。たとえ胸がえぐれていると言われようとも常にみんなの安全を考え、キャンプを成功させようと誰よりも行動していました。夜は私に抱き着いて寝ていましたが、その抱き着き方がまた子ザルにしか思えず、かわいい限りでした。誰よりも村人と気さくに話していました。小学生の中に入るとまぎれてわからなくなるという特技まで駆使していて本当に尊敬の意に値しました。　　From くるみ

《あいな》

キャンプが始まって一番本性を現してくれたのはあなたです。Survey では記録係として一生懸命でした。濡れながら果敢に水源に向かっていく姿を忘れません。子供のいたずらにも全力で立ち向かう。誇らしげに帰ってきたあなたの後ろから聞こえてきた泣き声は、あの時の衝撃は、これからもみんなの心に残り続けるでしょう。いい意味で終始みんなの心を乱してくれましたね。あいなのテンションの高さで何度みんなが笑顔になったか、元気をもらったかわかりません。いつもまっすぐでうるさいぐらいのあなたがみんな大好きです。　　From かな

《ともや》

ワークリーダーともや！幼女好きともや！下見を通して、私の中で好感度がぐっと上がったのがともやです。英語ができて、MTG では的確な意見を言ってくれて…たまに性格の悪さ！？が見え隠れしてたけど、本当に頼りになりました！ありがとう。途中からは適当なボケもかますようになり、私的にはすべてツボでした。虫好きなのに、なめくじには極度の拒否反応を見せ、クロックスを袋に入れた瞬間はちょっと引いたけど（笑）今回のキャンプで親近感の増したともやくん。本キャンではワークリーダー共に頑張ろうね＼(^o^)／

From あいな

《かな》

かなの他己紹介を書くのは二度目です。パスポートいじりは前回の報告書で使ったのでもう書くことはありません。ほんとはこう書きたかったのですが彼女は今回のキャンプでもやらかしてくれました。かなの携帯は見つからなくても思い出は皆の心に残っているよ。体を張ってネタを私たちに提供してくれるかなの根性には頭が上がりません。本キャンプでは何をやらかしてくれるのでしょう。

From ともや

《さとる》

BRGY ホールの妖精こと岩永悟！あれ？なんか見たことない青年いるじゃん！と思ったら悟。あれ？なんか顔でかいな！と思ったら悟。枕汚いし、ダグハンサラマ（ソカ）するし、女子高生になるし、今回記憶に残るものが多すぎましたね。パンシットを嫌いになりかけた彼はイベントを成功へ導き、持前のやさしさでみんなをいつも気遣ってくれました。悟は何かと気にかけて助けてくれるので本当にありがたかったです。バイオットキャラから脱出できるといいね。本キャンも頼りにしてます！　From りりこ

《くるみ》

いつも皆を笑顔にしてくれて、周りオーラがふわふわしているくるみん！今回のキャンプではタンボック（太っている）キャラが輝いていた！いつもはいっぱい食べて寝転がっているけれど、意見する時の説得力とかコミュ力とか周りへの気遣いは尊敬。いただきます、ごちそうさまでした、イベント係ありがとう！一緒にキャンプ行けてよかった！！そんなくるみんの「だるだるビサヤ（くるみんがビサヤ語を教えてくれる番組）」が本キャンに来ると生で見ることができます。　From ゆう

《ゆう》

ゆう！今回の話題は大体ゆうでした！you と聞き分けができないゆう。ウヤブという存在にふりまわされるゆう。集団生活の厳しさを痛感する彼女は鬼のメンタルで何を言われてもすべて流していました。しかし、新キャンパーでありながら多くの村人と交流し、すぐにブノイや新キャンプ地であるブタソンワンに溶け込んでいました。本キャンでは新キャンパーを引っ張る存在になるでしょう！　From さとる

１２．感想

★りりこ

3 回目のフィリピンキャンプ。行くかどうか本当に迷った 2 回目の下見キャンプ。去年は分からないことが多くとても悔しかった。だから行くならばリーダーとして参加したい。しかし私なんかがやってよいものだろうか。過去の報告書を読んだり、先輩の話を聞いたりするうちにより迷いが強くなった。さんざん悩んだあげく、結局私を動かしたのはフィリピンが好きというたったそれだけの感情だった。

今回 FI がタバンゴ市で初めて事業を行うということは今回の私達の印象が FI の印象を決めるということである。今後の活動に大きく影響するキャンプを成功させなければならないという大きな責任が私達にはある。大きなプレッシャーももちろんあったが、渡航が近づくにつれて私の中でわくわくする気持ちの方が大きくなっていった。タバンゴ市はマタグオブ市よりも村一つが大きく、citio（集落）ごとに調査を行った。去年は村長・村役員に主にインタビューしたが、今回は歩き回っていろんな村人にインタビューした。ある citio で英語の喋れる人のみがインタビューに答え、喋れない人は英語が喋れないことを恥ずかしがり答えないということがあった。権力のある人だけがインタビューに答えているのかもしれないということもあり得るため、公平性を考え survey の仕方を工夫しなければならないなと思った。また、パガバガンでは二つの水道システムのワーク候補があったが、そのうち一つの水道システムは市が修繕をする予定があったため、初めはもう一方のワークのみする予定だった。しかしこれだと FI のワークの利益を得ない人々が嫉妬してしまい、政治に関与してしまう可能性があるため、パガバガンでは二つのワークを行うことにした。これらのことに気づくことができたのはロクロクさんのおかげである。フィリピン人は日本人を気遣って正直なことを言ってくれないときがあるし、私達とフィリピン人の価値観は異なるため“よそ者”には分からないことがたくさんある。彼は私達には分からないフィリピン人の気持ちを代弁してくれる。少しの判断の違いで私達の活動が政治に関与してしまったり、私達が村人に押し付けるようなあまり求められていない一方的な事業、一部の権力者にしか利益のいかない事業となってしまったりするということに改めて自分の責任の大きさを感じると同時に、ロクロクさんのような存在がいることは本当にありがたいなと改めて感じた。

キャンプで反省していることがいくつかあるのだが、ひとつは GAM（スケジュール参照）である。ある日ブタソンの青年・おじさんたちとお酒を飲んでいた。ある青年が「君たちは何をしに来たの？」と聞いてきた。私達が滞在するプロパー地区ではワークは行わないため GAM を開けず、村人に私達が何者なのかをきちんと説明する場がなかったのだ。村人の多くは私達の目的を知らないのかもしれないということに気付いた。村人たちは何をしに来たかもわからない見知らぬ日本人と友達になり、親切に接してくれていたのかと思うと本

当に感謝しかない。それよりも説明する場を設けることができなかった申し訳なさの方が大きかった。本キャンプでは必ずプロパー地区でも GAM を開きたい。

今回のキャンプで私はブノイに 3 回目の滞在をした。村を歩けば誰かが「Riri!」と呼んでくれるし、子供が駆け寄ってきてくれるし、家にあげておしゃべりしてくれる。ふるさとって呼ぶのはおこがましいが私にとってとても安心する場所である。ブノイを発つとき、村人はブタソンまでついてきてくれたのに涙が止まらなかった。村人はもちろんだがその風景・空間から離れるのがとてつもなく寂しかったのだ。ブノイは 4 か月前よりも明らかに発展していた。サリサリが増えていたり、道路が舗装されていたりしていた。これからもっと発展していくかもしれない。そんな中で私達とつくった水道を村人が使って、たまに日本人が来たことを思い出したりして、そんな風に彼らの未来に少しでも私達がいてくれたらいいなと思う。そして次のキャンプ地もそんな場所になったらいいなと思う。

私はタバンゴ市にボランティアで小学校建設をされた日本人女性とお知り合いになることができ、ときどき情報交換をしている。その方にキャンプが終わり連絡すると、私が楽しそうにタバンゴの話をするのを聞いて「またタバンゴに行きたくなってきちゃった。インフラ整備などの事業で関わっても、その時で関係は終わってしまう。友達の延長線のように一つの地域にずっと関係を持ち続けていけるとよいのにね。」とおっしゃっていました。学生団体だからずっと事業のメンテナンスをしてあげられるわけではない。しかしずっと友達の関係を続けるのは可能である。彼らのことを日本で想うことは可能である。ふと私たちの活動は本当に村人のためになってるんだろうかと不安になるときがある。けれど私たちには私たちのできることをやる、何もしないよりも行動した方が絶対いいんだ、そう思う。

今回リーダーとしてキャンプに参加していろんな人に支えられていることをより実感した。リーダーらしいことは何もできなかった。過去 2 回悔しい思いをしたからという理由もあって参加したキャンプだったのに結局悔しい思いは消えなかった。今までのリーダーみたいには絶対にできない。だけどたくさんの反省を生かして自分らしく本キャンプに向けて頑張っていきたい。こんなポンコツについてきてくれたみんなには本当に感謝している。ありがとう。絶対本キャンプ成功させようね！！！

★あいな

ワークリーダーとして臨んだ今キャンプ。常に不安に押しつぶされそうだった今キャンプ。たくさんの人との絆を感じ、深めることが出来た今キャンプ。笑いに笑った今キャンプ。１つの言葉では到底表現できないけど、常に「笑顔」があふれていて、一瞬一瞬が本当にかけがえのない時間で、自分にとって本当に意味のある大切な３週間だったと思います。

今回、FI 九州史上初めて「マタグオブでは Survey をしない。タバンゴで次のワークをす

る！」と決めて下見に臨みました。はじめはただただ不安と恐怖しかありませんでした。MTG で市移動について話し合った時も、「FI にあったニーズが減っているとしても自分の目で見ないと何とも言えない」とか言ってマタグオブでも Survey をしたいとか言っていたのは、今思うと自分には新たな１歩を踏み出す自信がなくて、未知の地でいきなり Survey をすることが怖くて、温かいネットワークのあるマタグオブで最初は Survey をすることで、逃げ道のようなものを作って自分自身が安心したかったんじゃないかと思います。不安は報告書を読んだり、OB・OG の方の話を聞いても消えず膨らむ一方でした。しかしそんなとき、りりちゃんをはじめ皆が「不安もあるけど楽しみの方が大きい。せっかく行くのに、楽しまないと損。フィリピンは楽しいところだから。」って言っているのを聞き、私はすごく大事なことを忘れていたことに気づきました。自分がフィリピンに帰りたいと思った理由。それは本キャンで感じた悔しさももちろんだけど、一番は「もう一度フィリピンの皆に会いたい。大好きなフィリピンに帰りたい」ということでした。結局、私は行く前から今までずっとキャンパーに支えられていたのだとつくづく感じます。キャンプ中は、日程が着々と進んでいくことがうれしく、ほっとする反面、スムーズに進めば進むほど、こんなに順調でいいのか、何か問題があるのではないかと不安は大きくなる一方でした。また、タバンゴで初めての survey ということもありしたいことと現実が違ったりうまくいかない時には、「１回目だから」と自分に言い聞かせることが多々あり、本当にそれで良いのかと悩むこともありました。しかし楽しむ！という気持ちが強かったこと、不安から無駄にテンションの高かった私にキャンパーが付き合ってくれたこと、ロクロクさんやフィリピン人が笑顔で支えてくれたことで３週間心から楽しみ、乗り越えることが出来たと思います。

そして BONOY の人たちと再会できたこと、再び一緒に時間を過ごすことが出来たこと。それが何よりもうれしかったです。半年前にほんの１ヶ月過ごしただけなのに、再会ってこんなに感動的で嬉しいものなのだと思いました。BONOY は私のふるさとのような場所なのだとその時初めて感じました。新ワーク地 BUTASON１は、タバンゴで初めての地ということでマタグオブのようにはいかないけれど、最後には BONOY のように“第２のふるさと”といえる場所になったらいいなぁと思います。

最後に、キャンパーの皆。私の滞在中のテンションは予想外だったことでしょう。にもかかわらず３週間めげずに付き合ってくれて、一緒に生活してくれてありがとうございました。皆のおかげで辛いことも笑顔で乗り越えられ、今では思い出せないくらい楽しい思い出として残っています。本キャンではワークリーダーとして頑張りますので、またお付き合い願います。３週間 Daghan Salamat!!!!　そして、OB・OG の皆様をはじめ支えてくださったすべての皆様に感謝しております。まだまだ 2015 年度フィリピンキャンプは始まったばかりです。本キャン成功まで全力で突っ走っていきますので、今後も引き続きよろしくお願いいたします。

★ともや

僕にとっては二回目のフィリピン、そこで過ごした三週間は前回とは全く違うものだった。前回の本キャンプで感じたほんの少しの後悔と、沢山の楽しい思い出から参加することに決めた今回の下見キャンプは、今まで 10 年以上私たち FIWC 九州が活動してきたマタグオブ市を離れ、新たにタバンゴ市に移るという今までとは少し異なるものとなった。日本で今年から市を移るか議論をした時、正直完全に賛成とは言えなかった。市のニーズが減ってきている、ワークをする村がなくなってきているとは言っても、自分で実際に見たわけではない。まだマタグオブでやれることがあるのではないか。そんな気持ちが無かったかといえば嘘になる。この気持ちを持っていたのは僕だけではなくて、他の下見メンバーもそれぞれ考えていたと思う。それでもタバンゴ市に移動しようと決めたのは、タバンゴ市に移動することが FIWC の未来に、そしてフィリピン人の未来に繋がると思ったからだ。そうして実際に訪れたタバンゴ市の景色は、僕にとってはとても新鮮なものだった。最初に survey に訪れたリオグリオグで見た美しい海の景色を見た時、マタグオブから離れたのだなと実感したのを覚えている。そうして始まった survey は、今までの FIWC がマタグオブで行ってきた survey のようにいかず、戸惑うことがあった。タバンゴ市の村は一つが大きすぎて、以前のように沢山の村を調査することはできなかったのだ。そうした状況や、予定のずれによりどんどん時間が無くなっていった。今までの状況と違うから、市が移ったから、時間がないから、と、なんとなく成り行きで色んなことが決まって行ってしまう。そんな状況に、本当にこれでいいのかと疑問に思って、みんなで納得いくまで議論した。それは、確実に本キャンプの成功に繋がる一歩であると思う。ただ、この下見が成功だったかどうかは未だ分からない。それは、本キャンを成功させて初めてわかるものだと思う。下見に行ってみて感じたことがもう一つある。ロクロクさんの存在の大きさだ。私たちが survey に行ったもののワークをしないと決めた citio があったのだが、その決断が私たちの政治的な中立を脅かす可能性があることを指摘してくれたのだ。その他にも、ビサヤ語しかわからない村人が私たちの survey 中にニーズについて話すことができず、ワークの利益を受けられない可能性があることにも気が付いてくれた。そうした沢山の手助けのおかげで私たちの活動がスムーズに行われている事を強く感じたし、だからこそロクロクさんと共に新しい市で基盤を作ることができた今回のキャンプの持つ意味は大きいものだと思う。沢山の新しいメンバーを加えた本キャンプ、楽しみでもあり不安でもある。

ワークリーダーとしても、下見キャンパーとしても、成功に向けて精一杯頑張るとともに、思いっきりフィリピン人と遊んで、仲良くなって、楽しめるキャンプをみんなで作っていけたらいいなと思う。

★かな

2回目のフィリピン。あれだけ頼もしい先輩たちがいた前回のキャンプとは違う、そして、市を移るということもあり、不安と同時になんとも言えない新しい気持ちでフィリピンにむかった。

メイヤーに紹介された村は言われた通り厳しい状況で正直一歩引いてしまった。ブノイではあまりわからなかった台風の被害や水がないという状況があらわであった。キャンプ地決定に当たり話し合いをしたが、初めての市であり、状況を読んで、、、という考えがみんなの中に残っていた。それでいいのかという話に変わっているようなことも多かった。そんな私たちに、``自信を持て、ちゃんと自分の目で見たし survey もしたじゃないか``といってくれた彼女の意見は、あの時の空気を、みんなの気持ちを、持ち上げてくれた。状況に流されてしまうようなこともあったし、本当に探りさぐりであったと思う。

前回のキャンプではパスポートの不備で迷惑をかけた。今回は evaluation で訪れたブノイで携帯を無くした。海外で落とし物をして見つかるはずがない。しかし、ロクロクさんは警察へ行き、村の集会で呼びかけてくれ、青年たちは私の気付かないところでその時の状況をみんなに聞いて回って、夜中も道をたどってを探してくれていた。今回の滞在は前回に比べだいぶ短かったけど、今回訪れてみんなと関わりあって、本当にまた戻ってきたいと思う場所になった。

また、前よりも大幅に少ない 7 人でのキャンプ生活であったため、本当に各自個性が出ていたと思う。今までに気づけなかったいいところはもちろん、みんなの意外な一面が面白いくらいに見えた。みんなで村をまわって、どろどろの山道を歩き、長時間船に揺られ、夜には意見を出し合い話し合う。一緒に寝て起きて、ご飯をたべて、おなかが痛くなるほど大笑いした。そんな毎日は、本当にかけがえのない時間であった。思えば、一番初めのキャンパー募集で参加の意思を示したのは、私を含めた愛奈と悟の 3 人だけだった。動揺を隠し切れなかった私たちの中でりりこがリーダーに立候補してくれて、ともや・ゆう・くるみが加わり、この下見キャンパーができた。今では、この 7 人でこそのキャンプであったし、誰かがいなかったらなんて考えられないほど一人ひとりが大きな存在である。そう思えるもりりこがリーダーをしてくれたからだと思っているし、こう思うことができた分りりこに負担をかけていたのではないかと反省する。

今回のキャンプで、ロクロクさんを初め現地の人々、MTG に駆けつけてくれた OBOG、国内係のあやか、もちろんキャンパーのみんなに、ほんとに多くの人に、支えられ助けらせていることを実感した。ほんとにみんながだいすきだと思った。ワーク成功させる！！これしかない！！！

★さとる

予想外のことばかりだった。台風によりほとんどの船が欠航、タバンゴ市長の壮絶な若作り、ボートでの移動、便座があるトイレ、パンシットの油、カオスなキャンパー、なにもかも予想外だったが今ではよい思い出で下見キャンプに参加できてよかったと感じる。今回新たに市を移動することになり、キャンプ前 MTG では多くの時間話し合い、多くの時間考えた。OB、OG の方からいろんな話を聞いた。話せば話すほど何か不安が募る気がしていた。結局考えすぎだったのかもしれないが、きっとその時間がなかったら下見キャンプはなかったと思う。キャンプ前にみんなと本気で話せたこと意見を聞けたことはとてもよかったと思う。結果的にカオスキャンプになってしまったことは否めないが無事に市を移動できたことがすごくうれしく安心した。タバンゴの人たちはマタグオブの人と同じく気さくで優しい。この市の人たちともっといい関係を作りたいと思った。ジャパフェスなどでも親切にぼくたちを助けてくれた。急にきた日本人を信頼してくれること。ワーク面以外でも僕らをサポートしてくれること。僕たちは村人への感謝の気持ちを忘れず生活すべきだと感じた。本キャンで人数が多くなり、さらに多くの負担がかかると思う。そういう時も村人のことを一番に考えてワークやステイを行えたらと思う。また、フィリピン人と日本人の価値観の違いについて個人的に悩んだ日もあった。本当に必要なのか逆に村人にとって迷惑にならないのか。でもこの価値観の中で少しは同じものがあり、少しは分かり合えるものがあるとも気付いた。そこを見つけられるのは僕たちで、FIWC だと思う。本キャンプでもそんな村人の立場にたって考え、ワークをやっていきたい。

今回二度目のフィリピンキャンプで、やはりこのフィリピンという地フィリピン人が大好きだと改めて感じた。フィリピンの夜空は相変わらず最高で、ずっと見てられる。このフィリピンにもう一度帰ってこられること。大好きなこの地で村人と一緒にワークができることをうれしく思う。そういうふうに思えたのは下見キャンプを共に過ごしたキャンパーの 6 人のおかげだと思う。キャップのりりこは、忘れもの多いけどみんなをまとめてくれるし、ともやは、ナメクジ嫌いだけどハイスペックだし、あいなは先端苦手だけどワークを真面目にこなしてくれる。くるみは、ふわふわだけどいろんな見方ができるし、かなは、i phone をトライシクルで落としたけど、キャンパーのことよく見てくれるし、ゆうは、リーゴ長いけどコミュ力あって村人とすぐ仲良くなれる。このメンバーだときっと大丈夫で、成功できると思う。本キャンプが本当に楽しみだ。

★くるみ

今回のキャンプに参加できてよかった。本当にその思いが強い。こんなことを言ってしまうのは私に「ボランティア」という意識が少ないからかもしれない。しかし、きっとメンバーの誰もがそのような意識ばかりであるとは思えないし、持っていればいいとも思わない。私たちの活動に意味があると言えるのは村人との「交流」の中から生まれるたくさんの笑顔があるからだと思う。もちろんそれだけでなく、インフラ整備が主の活動であるから生活面の向上もあるが、私たち学生が自分たちで survey して、話し合って、ワーク地を決定して、実際にワークする。このすべてのプロセスに村人との交流があって、私たちが外から来た者であるということも大切だと思う。今回で 2 回目の参加であったが、前回のキャンプ地のブノイに滞在するということで、みんなに会いたくてたまらなかった気持ちがあって、私は個人的には「みんなーーー久しぶりーーーー！！！！！」というような本当にはやるような気持ちで村に行ったが、ブノイの村人は意外としれっとしていて、そのギャップに「そっか」とどこか納得した自分がいた。自分達はみんなの日常に参入するもので、自分たちの日常とはかけはなれたことをしているから興奮していて、でも村人は自分達の日常を普通に過ごしていて、そこにただ私たちがきたっていうだけだから仕方ないかと思った。うまく言えないけれども。それでもブノイのみんなが楽しみにしていてくれたことが伝わって、人生に 1 回きりの関わりでなくて、再び会えたことで本当に友達になれた気がした。

Survey をしていて貧しいところなどもいっぱいあって、今まで知っていたフィリピンがすべてじゃないとことがわかって少しこわくもなった。何があるかわからないなとも思った。けれど、新しい村で、1 からの関係を作ってやっぱりフィリピン大好きだなと思ったし、また行けることが嬉しい。

最後になりましたが、キャンパーのみんなが大好きすぎてたまりません！！！みんなありがとう！支えてくださった OB,OG の方々もありがとうございました！！春の本キャンも必ず成功させましょう！！

★ゆう

台風の影響で初日から予定が大幅にずれ、ブノイに到着したのは夜だった。皆が懐かしい、帰ってきたと騒いでいる中で、私は知らないフィリピン人と知らない場所で 1 人そわそわしていた。しかし、私の福岡空港ですでに壊れていたバックパックをジェイマールが運んでくれたり、エリアスのご飯がおいしかったり、その日の夜にたくさんの村人が話しかけてくれたり、一緒にバスケをしてくれたり、人一倍楽しませてもらったおかげでフィリピンにす

ぐに馴染めて、帰りたいなんて全く思わなかった。そして、次の日の朝初めてブノイの景色を見て、これがフィリピンか、と感じて、きれいで感動した。キャンプの序盤は今フィリピンにいるということに感動して、モルティカブに乗ればいつまでも外の景色にみとれ、フィリピン人としゃべることを楽しんで、本当に幸せを感じていた。だが、日が経ってフィリピンに慣れていくにつれて、こんなに楽しくていいのか、なぜこんなにも楽しいのか、と頭の片隅に思うようになっていた。その答えはすぐに分かった。楽しいのは、前回のブノイキャンパーと６人のおかげだと思う。水にほとんど困らなかったのは前回のワークの完成のおかげなのはもちろん。村人との会話ではＯＢ，ＯＧの方の話で盛り上がり、ブノイキャンパーのことが本当に大好きなのだと実感した。半年前、先輩方がブノイのためにしたこと、残していったものの偉大さがひしひしと感じられた。また新キャンパーが自分だけというのは正直不安要因であったが、他のメンバーが色々と気をまわしてくれていり、嫌なことがあっても文句も言わず我慢してくれていたのだろうと思う。そして、楽しすぎる毎日を送れていたのは、私がこのキャンプの重みを知らなかったからだと思う。出発前、両親や祖父母にたくさん心配され、しっかりしなさいと言われていたのに、フィリピンについてからしばらく、私は地に足がついてなかったように思う。自分の言語力の無さ、前もっての勉強量の少なさ、他のメンバーとのモチベーションの差に自分に額残とした。他の皆はそれぞれの思いを持って、２回目のキャンプに参加しているのが感じられた。毎年それぞれの代の先輩が必死の思いで何年も繋いできたフィリキャンなのに、私は下見という本来の目的を他のメンバーに任せっきりにしていた。今回の下見は市も変わり、ＭＴＧでもなかなか納得できないこともあったが、他のメンバーがしっかりしていたので、大きなトラブルもなく無事ワークは決定した。しかし、私には少し悔しさが残ってしまった。リーダーは人一倍努力して動き回っていて、ワークリーダーはワークの決定に一番責任を感じていて、私ももっと頑張りたいと思ったがついていくので精一杯だった。私がこのキャンプでできたことは、フィリピンを心から思いっきり楽しめたことと、炭酸が飲めるようになったことだけかもしれない。ただ、私にはまだ本キャンが待っているから、反省ばかりしている場合ではないと思う。今回のキャンプで学んだことを生かして、ワークも成功させて、今度こそは晴れ晴れした気持ちで帰ってきたいと思う。これが私のこれからの目標だ。

そしてキャンプ中、少し辛いときでもやっぱりフィリピン人の優しさにたくさんもらった。村人たちとはよい giveandtake の関係が築けているように感じた。フィリピン人から学んだことや得たものも多かったが、先輩方がフィリピン人に残したものもたくさんあった。また、フィリピン人の良い面も悪い面も見てきた。特にかなが iPhone をなくした時は本当にたくさんの人が必死に探してくれた。逆に歩ける距離なのにタクシーに乗せて更にチップをとっていったり、昼から酔っ払っているあたりは笑うしかなかった(笑)。次のキャンプではフィリピンの色んなところをもっと見つけにいこうと思う。そして、春にまた会えるまでにお互い自分の生活を精一杯頑張ろうとブタソン１の青年と約束したから、私も目標のために頑張ろうと思う。

ブタソン１に滞在中、上記に述べたように先輩方の素晴らしいワークを見てきて、これから私たちがここで創り上げていくのかと考えると不安に感じることがあった。しかし、ある人が言っていたように「毎年先輩の背中を見て憧れて、必死に追いつこうとして FI は続いてきている。だから、過去の形にとらわれず自分たちのワークを作ろう。」と考えると、春のキャンプが楽しみでしかたない。タバンゴ市に移動という責任や希望を持ったこの下見キャンプに参加できて光栄だ。他のメンバーの皆さん、怒らせるようなことや迷惑をかけてばかりで本当にすみませんでした。いつもお世話してくれたり、言うことはちゃんと言ってくれてありがとう。皆と下見に行けたことは私の宝物になった！まだこれからが本番だけど、頑張って参りましょう！！国内係のあやかさん、出発前にアドバイス、応援、心配してくれた OB・OG の方、家族、本当にありがとうございました。

＜フィリピン下見キャンプメンバー＞
林田梨里子（九州大学 2 年）：リーダー
池山愛奈（九州大学 2 年）：ワークリーダー/記録
田中友也（九州大学 2 年）：ワークリーダー/KP
平野佳奈（西南学院大学 2 年）：会計
岩永悟（福岡大学 2 年）：イベント
野中くるみ（九州大学 2 年）：イベント/KP
田中ゆう（九州大学 1 年）：保健

FIWC 九州（代表：呉　唯意）
Mail：fiwcq@hotmail.com
Web：http://fiwckyushu.jimdo.com　（FIWC 九州公式 HP）
Twitter：@fiwckyushu